令和5年度　上原小学校　海洋教育全体計画（案）

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋教育基本計画

本校の教育目標

豊かな自然と文化にめぐまれた「我が島（ばかすま）西表」に生まれ育ったことを誇りにし、人や地域と関わり合いながら、

〇進んで学びよく考える子（知）
〇明るく思いやりのある子（徳）
〇体をきたえ、ねばり強くやりぬく子（体）
〇自然と文化を大切にし、郷土を愛する子（郷土愛）

を学校教育の目標の柱とし、島の未来から、日本の未来に思いをいだき、持続可能な社会の創り手となる児童を育成する。

〇地域の特性

・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である。
・海を仕事場とする保護者が多い。

〇児童の実態

・活動的であり、何事にも積極的に取り組もうとしている。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。

・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

海洋教育のねらい

「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、
未来にはばたくぱいぬ島っ子

OCEAN EDUCATION

本校の海洋教育目標

〇海に関わる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な上原のまちづくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。
〇海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。
〇分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域が抱える諸問題に気付き、それらが世界的な問題であることに気付く。	地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて見通しを持って調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにして、まとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探求的な学習に主体的・協同的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、自らの生活のあり方を考え、上原のまちづくりに関わっていこうとする態度を育てる。

各教科等と連携

「海と共生」する資質・能力の育成の視点から

〇各教科等、指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
〇SDGs の視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
〇体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

結ぬ海科

上原小　海洋教育の三大学習　「魚まき集会」「ビーチクリーン」「防災学習」

各学年の海洋教育の内容

1,2年	「西表島の海に親しもう」【海に親しむ】
3年	「海と人との関わりについて考えよう」【海を知る】
4年	「海と山のつながりを考えよう」【海を知る】
5年	「西表島の海の環境を考えよう」【海を守る】
6年	「海と私たちの生活とのつながりを考えよう」【海を守る・海を知る・活用する】

他校・地域との連携

〇他校との連携
・西表島内の学校
・竹富町内の学校
・沖縄県外の学校
〇地域人材・関係団体との連携

教材化の工夫

〇地域の教育資源の活用
・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
・児童の学習活動に協力・支援できる人材を募り整理する。
〇教材化の視点
・各教科等横断し、地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるように教材化する。
・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

問題解決的な学習における学習過程

（1）「課題をつかむ」段階
・教科学習の発展として。
・行事などへの主体的なかかわりから。
・生活の中の気づきから。
・様々な体験から。
（2）「計画・追究する」段階
・どこで、どのような方法で調べるか。
・だれに、どのようにして伝えるか。
（3）「まとめ・表現する」段階
・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動をふり返り見直す。

指導方法・指導体制の工夫

〇学習形態の工夫
・学年の枠を超えた異学年での取り組み。
・課題別グループによる取り組み。
〇指導体制の工夫
・地域人材の活用。
・近隣小学校との連携した交流学習。
〇学習環境の工夫
・調べ学習に対応できる学校図書館の充実。
・町内や県外の学校との交流学習を推進するための ICT の整備・充実。
〇評価の工夫
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。
・ポートフォリオを活用した指導の充実。
・自己評価、相互評価